

## No6 忘れ物が多い子・整理整頓が苦手な子への指導のヒント

忘れ物が多かったり、机の上に物がいっぱい、使う物をすぐに用意出来ない状況であると、学習や作業そのものに影響が出てきます。強く叱ったりして、意欲をなくす等の悪循環につながらないためにも、少しでも身の回りを整頓する方法をアドバイスしてあげたいものです。

### (1) 忘れ物が多い子

コンパスや定規、縄跳びの縄、体育着や絵の具など学習で使う物を忘れてしまう。

- ・聞いただけでは覚えられない。
- ・メモを書いても、見ることを忘れてしまう。
- ・必要な物をどこに置いたか、分からなくなってしまう。
- ・他の事に気がとられてしまう等

- ・持っていきべき物を、必ずメモに取るようにする。
- ・出掛ける前に、必ずメモを見るように習慣付ける。  
(靴の上、ドアノブ等、メモを貼る場所を決めておく。家の人もその場所を知っておくと声が掛けやすい。)
- ・セットなど必要な物は、まとめて袋に入れておく。
- ・物の置き場所は決まったところに決めておく。(必ず表示をする)
- ・絶対に必要な物は、玄関の目立つところにカゴ等を置き前の晩に必ずそこに入れておくようにする。
- ・忘れたらどうすればよいか、考えたり教えたりしておく。  
(兄弟や友達に借りに行く方法など)
- (親がすべてを整えてしまうと、自分で準備したり、気をつけようとしていたりする気持ちが育ちにくくなります。少しずつ教えていきましょう。)

### (2) 整理整頓が苦手な子

前の時間の用具を出したまま机の上がいっぱい。大切な物をなくしてしまう。

- ・片付けるべき時に、他のことに注意がそれてしまう。
- ・計画的に行動する力、見通しをもつ力が弱く、次にどうするべきか考えにくい。
- ・いつも誰かがやってしまう等

- ・必要な物だけを取り出し、不要な物は、こまめにしまうような声かけを授業の要所で行い、しまうのを見届ける。(出来たら褒める)
- ・道具箱等に仕切りをつけ、箱の下(中)にすべてきちんと入った状態の写真を貼っておく。(どこに何が入るか明確にする。)
- ・ロッカー内など、物を置く場所を決め、見えるように表示をする。(色別などの箱を用意してあげる)
- ・どうしても散らかる場合は、取り合えず、入れておく箱を作り、まずそこに入れることの声かけをする。(後でしまう練習をする)
- ・筆箱は、出来るだけシンプルな物にする。黒鉛筆3本・赤鉛筆1本・消しゴム1個等必要最小限にし、自分で管理しやすくする。
- ・学級全体で、持ち物の整理日などを定期的に設ける。

#### <指導のポイント>

- ・上記のような特徴をもつお子さんは、「しつけがうまくできてこなかった」と思われがちですが、注意の集中の難しさ、記憶のとどめにくさ、行動の調整の困難さなど、「ADD」(ADHD<注意欠陥/多動性障害>のうち、多動性がないもの)が行動の背景となる場合が多くあります。
- ・適切な対応やサポートによって良い傾向に向かいますから、頭ごなしに叱らず、どうすればうまく忘れにくいのですむのか、整理が出来るようになるのかを、根気強く教えていくことが必要です。自信を喪失して、二次的な障害を生じないようにすることが大切です。

